

知事 建築家に与えられる世界の名だたる賞のほとんどを受賞され、イェール、コロンビア、ハーバード大学の客員教授を歴任、東京大学の特別栄誉教授でもあります安藤忠雄さんに、香川県とのこれまでの思い出やこれからのことについて、お話をいただきました。安藤さんが香川県の建築と出合ったきっかけや、香川県の印象はどのようなものだったか。

安藤 1960年代の初め、丹下健三さんの作品である香川県庁舎を見に行きました。丹下建築はもちろん、そこには猪熊弦二郎さんら芸術家の作品があり、建築と現代美術がセットになって価値を高めているのに驚きました。それを当時の金子知事が構想したわけです。香川県は建築と芸術文化の先進県だと、斬新な印象と衝撃を受けました。

知事 丹下健三さんの設計した香川県庁舎東館（旧本館および東館）は今では国の重要文化財になりました。この建物の中には香川県出身の猪熊弦二郎さんの壁画をはじめ、剣持勇さんの家具など上質なアート空間が広がっています。その後、安藤さんは瀬戸内国際芸術祭（瀬戸芸）の原点となるベネッセ



生てきたのも直島です。

安藤 後に文化庁長官になる河合隼雄さんと弁護士の中坊公平さんから「豊島」という島は日本で最大の産業廃棄物不法投棄事件の被害に遭い、苦しんできた。これを何とかしたい」と話がありました。豊島を産廃の島から新しい命のある島にしたいと、ユニクロの柳井正さんにも声を掛けて2000年に「瀬戸内オリブ基金」をスタートさせました。こうした歴史をたどると、香川県は日本の環境を

考える原点の一つといえます。今、世界中で地球温暖化が問題になっていますが、福武さんが考える島の環境を守りながら活性化させる道へ、金子知事から続く現代美術と建築の遺伝子、それらがうまうまくセットになって、今の直島の魅力があるのでしようね。

知事 現代アートを媒介として島の個性を際立たせ、地域が活性化する「直島メソッド」には、現代日本が抱える問題を解決するエッセンスが凝縮されており、学ぶべきものが多くあります。

安藤 福武さんと総合ディレクターの北川フラムさんをはじめ、瀬戸芸を実現し継続させている多くの人たちの想像力とねばり強さには感服しま



建築家
安藤 忠雄

1941年大阪府生まれ。独学で建築を学び、1969年安藤忠雄建築研究所設立。代表作に「光の教会」「フォートワース現代美術館」「プンタ・デラ・ドガナー」など。1979年「住吉の長屋」で日本建築学会賞、1995年プリツカー賞、2005年国際建築家連合（UIA）ゴールドメダル、2010年文化勲章など受賞多数。1997年から東京大学教授、現在名誉教授。2000年、瀬戸内海の破壊された自然を回復するための植樹活動「瀬戸内オリブ基金」を設立。2011年「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長。

子どもたちに船の移動図書館を

アートサイト直島に関わることになるのですね。

安藤 1988年に、ベネッセの福武總二郎さんから直島を世界一の現代美術の島にしたいと話がありました。建築は便利で合理的であるべきという考え方があった時代ですが、島は鉄道や船を乗り継いで行く非常に不便なところでした。ところが、福武さんはその島を現代美術のメッカにすと言いつつ切ったんです。私は直感的に、これは香川県の遺伝子が受け継がれているなと思いました。例えば、丹下さんは香川県庁舎にピロティ*を設け、通りから自由に出入りできるようにすることで、権威主義的で

知事対談 池田 豊人 × 安藤 忠雄
IKEDA TOYOHIITO ANDO TADAOU

瀬戸内海の力で未来をひらく 建築とアートの聖地・香川県

す。この素晴らしい瀬戸芸をきっかけに、池田知事にはさらに情報発信に力を入れていただきたい。香川県には、イサムノグチの庭園美術館、海的神様こんびらさん、戦後民主主義のシンボルといえる香川県庁舎東館もあり、何より瀬戸内の海の力があります。そして瀬戸内海の力は景観だけじゃない。今後予測される食糧危機に対処するために、瀬戸内海を巨大な海洋牧場にすれば日本人のタンパク源は確保されますよ。漁業のみならず農業圏的なものを瀬戸内海内円で形成するのも一つです。瀬戸内の可能性や魅力を広めるアイデアとして、海上で開く茶会や子どもたちのための船の移動図書館も考えています。

知事 鳥を訪れると人々は口をそろえて「もつと島に来てほしい」と言います。そこで私は「県民鳥旅プロジェクト（仮）」を提唱したいと考えています。海上茶会や島々を巡る船の図書館が実現すれば、県内外の幅広い世代の人々が鳥を訪れてくれますね。

香川ならではの力を生かしたい

安藤 大阪では2025年に万国博覧会が開催されます。世界が驚く博覧会にしたいと計画ですが、瀬戸内海沿岸の府県が力を合わせて、海を生かした博覧会にするのもおもしろいと思いますよ。

知事 香川県知事となって改めて香川県の発展は瀬戸内海と共にあることを実感しました。多島美の海は穏やかで災害が少なく、晴れの日が多い香川県です。地形や気候も含め、他の県にない力をますます発揮していきたいと考えています。

安藤さんからは、建築とアートのみならず、戦後民主主義においても、環境問題、食糧問題においても、重要な鍵を握る香川県であることを改めて示唆していただきました。未来をひらく子どもたちのためにも、命や自然を学ぶことができる瀬戸内海の環境を十二分に生か

香川県知事
池田 豊人

し、最大限可能性を広げてまいります。本日は貴重なお話をありがとうございました。

今回の対談は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、パネルの設置と十分な距離を確保した上で、行いました。

*ピロティとは1階部分を柱のみとして外部に開かれた空間を造る建築様式。